

あまみす

雨水利用を進める市民の会
会長辰濃和男
〒181 東京都墨田区東向島1-8-1
☎ 03-3611-0573
FAX 03-3611-0574

雨水利用と私

辰濃 和男

私が雨水利用に関心を持ちはじめたのは1970年代です。井の頭公園の近くに住んでいたのでよく公園の湧き水を見に行きました。70年前後からか、水が枯れはじめました。周辺がコンクリートで武装されたためです。都会の雨が無造作に下水に捨てられていることこそ、不自然の極みであり、最悪の公害だと思うようになりました。

当時、こんな話を聞きました。「日本は雨水が豊かだと思っている人が多いが、とんでもない。年間の平均降水量は世界平均の二倍もある。が、ひとり当たりの降水量は、サウジアラビア以下なのだ」。そうか、日本は決して雨水大国ではないのだ。そう思ったことがこの道にのめりこむ一つのきっかけでした。

1984年、雨水を利用した国技館が完成しました。そのとき「都市に無数のミニダムを」と主張している若い人たちに出会いました。グループのなかに村瀬誠さんがいました。私にとって幸運な出会いでした。『天声人語』の雨水利用キャンペーンを支え、方向を示してくれたのが村瀬さんや人見達雄さんたちのグループです。当時、今のような立派な「雨水利用を進める市民の会」ができるなんて、想像もしませんでした。

以後、オーストラリアやニュージーランドの旅で、雨水利用が暮らしに溶け込んでいる町や村を見てきました。N.J.のレイでは生活用水のすべてが雨水です。大学の研究所もモテルも全面雨水利用で、それが極めて自然な暮らし方に見えました。むしろレイの人から見れば、雨水の大半を捨て、塩素臭の濃い水道に頼り、ミネラル水を買って飲む日本人の暮らしこそ、まことに奇異な、まことに不自然な生き方に見えることでしょう。

レイでのことです。研究所の教授に「天気予報だとあすは雨です。天気が悪くなるようですね」とうっかりいって、からかわれました。「タツノさん、天気にいいも悪いもないでしょう」。雨水とのつきあいが上手な人たちには「雨=悪」の図式は通用しません。私の雨水観はまだまだほんものではないぞと反省しました。「天水尊」をわが家に置いてから、私の雨水観もまともになってきたようです。



雨水利用自治体ネットワーク始動！

自治体担当者会議開かれる

木村達貢 謹成

今年の3月14日、全国の、雨水利用に取り組んでいる自治体及び今後取り組もうとしている自治体の担当者が、墨田区の呼びかけで同区に集まり、雨水利用の情報交換が行われました。呼びかけを行った墨田区環境対策課では、年度末の多忙な議会シーズンもあり、参加を10程度と予想しておりましたが、当日はそれをはるかに超える29の自治体が全国各地から集まりました。沖縄県、福岡市、長崎市、尼崎市、埼玉県などです。雨水利用の情報交換のために持ち寄った資料は、実にバラエティに富んでいました。

午前中は、各自治体における雨水利用の情報交換、午後は、墨田区環境対策課の小板橋主事による墨田区の雨水利用の報告を受けて、区内の雨水利用施設の見学が行われました。

午前中の報告の中で、第一に、一口に雨水利用といっても、地域によって政策の力点が異なるということが明らかになりました。沖縄県、福岡市などのように水資源の確保に力点を置く地域、越谷市のように都市緑化の水源に雨水を活用するなど都市環境の改善に力点を置く地域、神戸市や墨田区のように防災対策にも力点を置く地域などがあります。

第二に、住民や事業者に対する雨水利用の助成に取り組む自治体が増えてきていることがわかりました。墨田区、多摩市、南足柄市、越谷市、埼玉県などです。そして第三に、行政内部の雨水利用推進体制、雨水利用した場合の下水道料金の減免措置の問題など、雨水利用推進に関するさまざまな行政課題も明らかになりました。

報告の後、次のような目的で今後も自治体連絡会を開くことが確認され、正式な組織の立ち上げに向けて、墨田区、多摩市、越谷市、鎌倉市など世話人

自治体を選び、詳細を詰めていくことになりました。

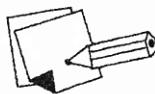
- 1、雨水利用の情報交換、政策交流
- 2、年一回の雨水利用自治体担当者連絡会議の開催と、希望自治体によるイベントの開催
- 3、世界の雨水利用自治体との連携（インターネットによる情報交換等）
- 4、市民活動との連携

今回、雨水利用自治体担当者連絡会の結成に向けてスタートが切られたことは、重要な意義を持っています。第一に、自治体間のネットワーク化によって情報交換が活発になり、全体として雨水利用のレベルアップをはかることになります。第二に、世界中の都市ともネットワークすることによって、雨水利用自治体のグローバルネットワークの道が開かれます。（今年5月、雨水利用にかかわっている墨田区職員4名が、ドイツの雨水利用自治体を訪問しました。ドイツとの間にネットワークの第一歩を踏み出すことになるかもしれません）。第三に、自治体と市民とが一体となって雨水利用を進めていくための体制づくりの契機になりました。

21世紀へ向かって、世界中の都市で人口の集中が加速する中、渇水と洪水を総合的に解決する雨水利用の推進は、都市のサステナブルテベロップメント（持続的発展）の主要なテーマになるに違いありません。雨水利用自治体連合と市民の雨水利用ネットワーク化は、雨水利用東京国際会議の最終日に発表された雨水利用東京宣言の中で提起された、雨水利用を行う世界中の人たちと手を組み、雨水利用で地球を救う輪を広げる実践的課題といえるでしょう。



雨水特派員 募 集



情報部会

情報部会では、「各地の雨水利用施設に関するデータの収集と整理」を、活動の柱の一つとしてあります。

全国の雨水利用施設のうち、比較的規模の大きい建物件数等は、国土庁の発表などから知ることが出来ます。しかし、私たちは特に、「市民レベル」の雨水利用データを収集・整理し、社会に広く紹介していきたいと考えていますので、国土庁などのデータだけでは不十分なのです。

そこで、市民の会の会員、特に地方にお住まいの方に「雨水特派員」になっていただき、私たち情報部会の活動を援助して下さるよう、提案しようということになりました。

雨水特派員の主な活動内容は、次の通りです。

- 1 居住地の自治体が、当地の雨水利用施設を把握しているかどうかの確認。

(※ 現在、情報部会が収集しているデータはお知らせします。)

- 2 当地の雨水利用施設のデータ収集。

(※ 情報部会が作成したデータシートに、確認事項を記入してください。写真も撮ってほしいですね!)

- 3 ニュースレターでの発表。

(※ わが街の雨水利用施設を自慢してもらいます。)

近い将来、インターネット上で世界に雨水利用情報を発進することも考えています。

「雨水特派員」になってもいいと思われた方は情報部会宛に、事務局へはがき又はファクシミリ(03-3611-0574)で、ご連絡ください。折り返し連絡いたしますので、よろしくお願ひします。

(市川)

私の街の雨水利用

雨水特派員、第1号はこの方です。

彼女曰く、「会が力を發揮するには、議員を出して行政を動かすしかない!!」、名言である。

多摩・生活者ネットワーク(会員数43人)の会員で15年になるという。雨水の会との出会いは、村瀬氏の講演会を聞いて情報交換できたらと思ったことからで、国際会議以来。現在、情報部会に所属する。彼女が住む多摩市でも、天水尊、レインオアシスの設置に、市より半額の助成金が出るが、この制度の設立は墨田区より早い。なぜか?

多摩ネットワークからは、市議会へ3人の議員を輩出しており、この人たちと会員による市の環境課へのプッシュが効をそう

多摩市

鈴木 桂子
さん



し、いち早く制度化にこぎ着けたとのこと。議員の任期を2期までと制限し、持ち回りにより会員のあいだの情報の偏りを抑えているという。28人の議会に3人であり、これを13年近く支えているわけである。

また、同ネットワークには環境、福祉、教育の各部会があり、環境部会では洗剤、雨水利用、ゴミ、緑化、大気汚染、地下水の問題に精力的に取り組んでいるという。

『一番やっかいなのが大気汚染の問題よね。今取り組んでいるのが地下水の調査。古井戸について皆さんのお話を聞くのが楽しくって!!』

輝く瞳が美しい、パワフルな女性であります。

(M)

雨の文化

原始、水は「太陽」だった

○○ 篠原 和久

えっ、「女性は太陽だった」の間違いではないかって？ あなたはかなりの文学通ですね。でも、これからのお話を読めば、決して間違いではないことがわかるでしょう。

元旦の早朝に井戸から汲んだ水を『若水』と呼びます。昔は、若水を汲む人は、武士なら袴に大小の刀を差した姿、貴族なら烏帽子に直垂姿の正装を身につけました。汲む桶には輪飾りを施し、井戸にはシメ縄を張ります。そして、行き帰りの途中は、人に会っても口をきいてはいけないとされていました。つまり、それだけ神聖な行事だったわけです。若水汲みを、水の神、井戸の神を祀る行事として位置づけて、これららの神からの恵みとして「清い水」つまり若水をいただくという地方もあるようです。

汲んできた若水は、身体を清めたり、元旦に食べる物の煮炊きに使ったりしましたが、若水を沸かしたお湯を「福沸」、そのお湯に昆布や梅干しを入れたお茶を「大福」というように、特別にめでたい呼び名がつけられました。また、神仏に供えて、この年の豊作を祈る際にも使われました。年の初めにまず水を敬う行事を行っていたことが、昔の人々の、水に対する畏敬の念をよく表現しているといってよいでしょう。

海辺の地方では、同じ意味の行事として、元旦の早朝に海水を汲んで、清めに使う『若潮汲み』が行われていました。どちらの行事にも、水を尊んできた日本人の心がうかがわれますね。

参考文献：『年中行事図説』柳田国男 編



教育部会 フリーマーケット に出店

純利益 32,900円

4/21.
(日)

絶好のフリーマーケット日和でした。

広い公園には、地べたにビニールシートを敷いた「店」が100以上も並んでいます。教育部会の店はその中でも一番の「繁華街」になりました。売手は仲田さん、増田さん、川畑さんの3人です。

「ハーヤ。寄ってらっしゃい、安いよ」「気に入ったら買っとくれ」。仲田さんの、とびきり気っぷのよい掛け声に、行き交う人たちが思わず笑顔で立ち止まります。

「これいくら？」「300円！」「200円にならない？」。やりとりの末、250円で売れて、双方がにっこり。

「人の顔がみえて、様子をみながら値段を下げたりするところがフリマの楽しさ」と、増田さんがあとで語ってくれました。「子供たちも参加できると良かったんですけど」とも。



快晴の錦糸公園で

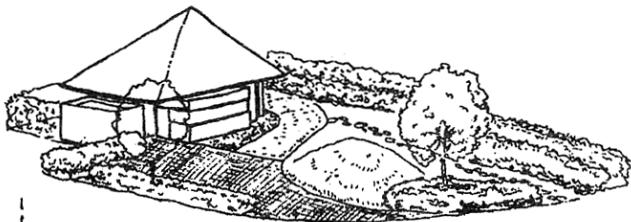


路地尊6号基、 防災まちづくり広場に完成

4月20日、東向島1丁目の高田製薬跡地がにぎやかな雰囲気につつまれました。一寺言問（いちてらこととい）防災まちづくり広場の完成を祝う祝賀会が催されたのです。

300坪の跡地に、建坪約80坪の一寺言問集会所が建設されました。ここに路地尊6号基があります。集会所の地下にこれまで最大の20m³の雨水貯留タンクを持っています。

ここでは、付近の方から寄せられた宮城県沖地震の体験をもとに、雨水を集会所のトイレの水に使用しています。もちろん他の路地尊同様手押しポンプも付いているので、非常の際には飲用水として使うこともできます。



阪神大震災でも、トイレの水は現代生活に欠かせないものとして、飲み水同様、重要視されました。

災害時には、防災や飲用、生活用水にと、水は欠かせないものですが、同時にその水が手の届く身近なところにあることが重要です。

路地尊6号基も他の路地尊同様、防災のためだけでなく、普段身近なところで使いながら、いざという時には、人々の命や財産を守るために使われるという知恵が生かされています。

◆本が出版されました

◎辰濃和男『風と遊び 風に学ぶ』

朝日ソノラマ 1600円

辰濃会長の本には難しい理屈は書かれていませんが、底流に、近代機械文明へのつよい批判があります。多くの著書に、人と自然への感受性を豊かにする粒子が浮遊しています。この本は、朝日新聞の小冊子に連載したエッセイに、大幅な加筆をして出版されました。

◎村瀬誠『環境シグナル』

北斗出版 2000円

「与えられた仕事を石ころで終わらせるか、ダイヤに変えるかは本人次第」。朝日新聞はある日の都内版にこんな見出しつけて「雨水」で薬学博士になった村瀬さんを大きく報道しました。「環境が発する危険信号を感じ取り、政策立案へと結び付けるノウハウを、(博士)論文内容に加筆してまとめた」(読売新聞)と、話題の本です。



◆路地尊、教科書に載る

神戸市で、中学校の道徳副読本に「路地尊」が登場しました。大震災にあったばかりの神戸市を東京の叔父が訪ねます。そこで甥の健二君に路地尊の話をすると、という内容。最後には「墨田区の『路地尊』を参考にして、地域や家庭での水の確保にどんな方法があるか考えてみましょう」となっています。

◆墨田の情報誌「アベニュウ」

雨水利用を特集。

墨田区内で広く読まれている情報誌『アベニュウ』が雨水利用の特集を組みます。配付は6月1日。マスメディアだけでなく、さまざまな場所、さまざまな形で雨水利用が取り上げられるのはうれしいことです。

◆事務局の高原さん、

さくらケーブルテレビに出る

「細く、長く」がモットーの高原さんですが、最近「太く、長く」に趣旨替えしそうです。一寺言問防災まちづくりの活動に加えて、市民の会事務局の仕事が増えているためです。テレビ放映は4月21日から1週間、内容は市民の会の雨水キャラバン隊のことなど。墨田区内だけの放映で残念でした。



電話で

ふじはな



菊地 文代さん

技術部会 所属



「農のある暮らししかしたかった」と言うだけあって、菊地さんは9年前に今の静岡の田舎に越してから、土をいじる生活をしている。

「全部自給自足とまでいかなくても、誰にでもできる形で自然を取り入れた生活をしたい」「一年間の中の何割かだけれども、一通りの野菜と小麦とお茶も作っている。」

現在の田舎の生活はより都会的になっていく。農業は衰退てきてゴルフ場などの開発が進んできている。

「私のできる自然を生かした生活を見て、捨ててしまった田舎の暮らしを考え直してもらえたら…。」

菊地さんの自然へのこだわりが彼女のファッションにもなっている。「リサイクルを考え

るとやはり木綿の素材になってしまうの。」と楽しそうに話す。

そんな菊地さんが雨水と関わりをもったのは約10年前。筑波の科学万博で村瀬さんたちが行っているソーラーグループと共に市民レベルのパビリオンをやったのがきっかけ。

「私は土、彼らは水だったが、今の自然開発はこのままよいのか、というところで一致していた。」

現在も「今、私に何ができるというのはないが、誰にでも簡単にできる雨水利用の技術をもっと知りたい。」と約3時間半をかけて市民の会に参加している。積極的だ。

身をもって自然の大切さを語っているのに堅苦しさではなく、楽しんでいるようだ。(a)

会費納入のお願い

会の運営は主に会費収入で賄われています。未納の方は、納入をお願いいたします。尚、年会費ですので、昨年の年度途中に加入された方も今年度分は4月から、ということになります。郵便局の振替番号は 00190-8-147757。金額は3千円、です。よろしくお願い致します。

※ 昨年6月、市民の会が行なった、中国の雨水利用調査の報告書が近日中に出来上がります。定価は千円です。ぜひ、お買い求め下さい。申し込みは、事務局へ電話またはFAXで。(番号は、この会報の表題にあります。)

※ 先号でお知らせした「富士山の雨水流出被害と富士山駐車場の雨水利用を検討するための実態調査」は、雨水フェア準備のため、やむなく延期しました。現在、9月実施に向けて、着々と準備を進めています。詳細は追ってお知らせします。かけがえのない財産である富士山を守るために、雨水利用を検討する企画です。会員のみなさまの、奮ってのご参加をお願いします。

編集後記

表題やすてきな似顔絵などのカットを、いつもサラサラと描いてくれる、我らの寺井久子さんが結婚して新井さんになりました。今回から(あ)のネームでお目にかかります。

この他、会報委員会は村瀬、今関、宮村、糸賀が担当しています。今回から、念願の「話題」コーナーを設けました。街から村から、さまざまな雨水の話題を、事務局または会報委員までお寄せください。(い)

会務だより



3/12～ 5/21

3/12技術部会▼3/14全国雨水利用自治体担当者連絡会議(墨田区にて、29自治体参加)▼3/22国土庁の「水の郷」百選に墨田区選ばれる(選考理由に雨水利用の取り組み)▼3/26雨水利用を進める市民の会総会▼4/9雨水フェア実行委員会▼4/10世話人会▼4/15ドイツ雨水探検隊、打ち合わせ▼4/21錦糸公園でフリーマーケット(教育部会)▼4/23情報部会(インターネット)▼5/1会報委員会、5/2雨水カレンダー部会▼5/4～13「ドイツ雨水探検隊」ドイツへ行く▼5/14会報委員会▼5/15世話人会▼5/21雨水フェア実行委員会

